

報道関係各位

インターネットを使った就職活動に関する調査

最近の就職活動ではインターネットが必須のツールとなっており、ネットを利用した就職活動「ネット就活」が定着してきました。しかし、ネット就活は、いくつかの問題も指摘されています。

そこで、連合（日本労働組合総連合会）（所在地：東京都千代田区、会長：古賀 伸明）は、ネット就活がどのように行われているのか把握するため、「インターネットを使った就職活動に関する調査」を、インターネットリサーチにより、2015年6月9日～6月17日の9日間において実施し、就職活動を行っている（または終えた）大学4年生500名、今年4月に社会人になった社会人1年生500名の合計1,000名の有効サンプルを集計しました。（調査協力機関：ネットエイジア株式会社）

◆現在の就職活動状況 -2015年6月現在-(P.2)

2016年春入社採用活動から、日本経団連の会員企業を中心に会社説明会の解禁は3年生の3月、採用選考の解禁は4年生の8月と昨年より大幅に後ろ倒しになっている（次頁の資料を参照）。しかし、連合の調査によると、6月現在すでに先行して内定が出始めている。

- ・現在、内定・内々定を持っている大学4年生は3割半
そのうち約4割がインターンシップ先からの内定・内々定

◆就職情報サイトに公開して欲しい情報 (P.8)

- ・就職情報サイトに公開して欲しい情報と得られる情報にギャップ
就活生の半数近くが「過去3年間の離職者数」の情報公開を希望。しかし就活生の9割以上がその情報を得られていない。

◆ネット就活における不安と困ること (P.10)

- ・ネット就活で困ること「必要なメールが埋もれる」「必要な情報の取捨選択が難しい」
- ・ネット就活における不安「興味のある企業がブラック企業では」「エントリー数が少ないのでは」

◆就活生のネット就活に対する考え (P.11)

- ・「より多くの会社にエントリー・応募したほうが内定を得やすい」
大学4年生では約6割が「そう思う」と回答しているが、社会人1年生では半数以下

◆大学生の就職活動を研究している

千葉商科大学 国際教養学部 専任講師 常見陽平氏のコメント

★就活時期繰り下げによる混乱、就活の構造変化、学生が抱く問題意識が可視化された調査結果だと言える。時期が変更になったが、企業は早期接触をはかりたいが故に、インターンシップを強化しようとしたこと、就職ナビサイトもそのニーズに対応したこともあり、これらのサイトに登録する時期が早期化している。企業も学生も疑心暗鬼になり、本当の時期が見えないことから、不透明なまま、結果として早期化、長期化したと言えないか。



★採用広報活動が始まった時期から、3ヶ月で3割強が内々定というスピード感も特徴だ。学生から内定先を聞き取り内定を出しているのはベンチャー企業、準大手が中心のようだ。ただ、今後、大手に取られる可能性もあり人材獲得につながるかどうかは別だ。ルールを破り早期に内定を出した企業も不安になることだろう。

★離職率など公開して欲しい情報が、就職情報サイトにて提供されていないという現状が明らかになった。就職情報サイトは、結局、求人広告ではあるが、本来、求人票よりも情報が豊富でわかりやすく、比較検討できることが特徴なのに、その役割を果たさきれていないのではないか。就活が、不透明感のある、学生にとって負荷のかかるものであることは変わっていない。求職者である学生の立場をいかに守るか。就職ナビは学生の味方なのか、敵なのか、介入する価値があるのかが、問われていると言えるだろう。

【資料】採用活動の後ろ倒しについて

	大学3年				大学4年								春	
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	...		
昨年まで	会社説明会 解禁				採用選考 解禁								正式内定	入社
今年から				会社説明会 解禁					採用選考 解禁				正式内定	入社

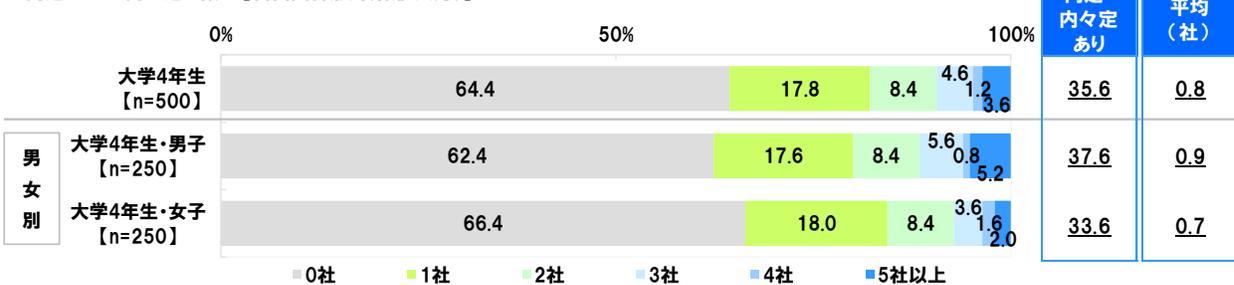
調査結果

～現在の就職活動状況（2015年6月現在）～

- ◆現在、内定・内々定を持っている大学4年生は3割半
- ◆そのうち約4割がインターンシップ先からの内定・内々定

まず、就職活動を行っている（または就職活動を終えた）大学4年生（500名）に、現時点の内定もしくは内々定の数を聞いたところ、内定・内々定が出ている大学4年生は35.6%でした。内定・内々定が出ている大学4年生の割合を男女別にみると、男子は37.6%、女子は33.6%となりました。

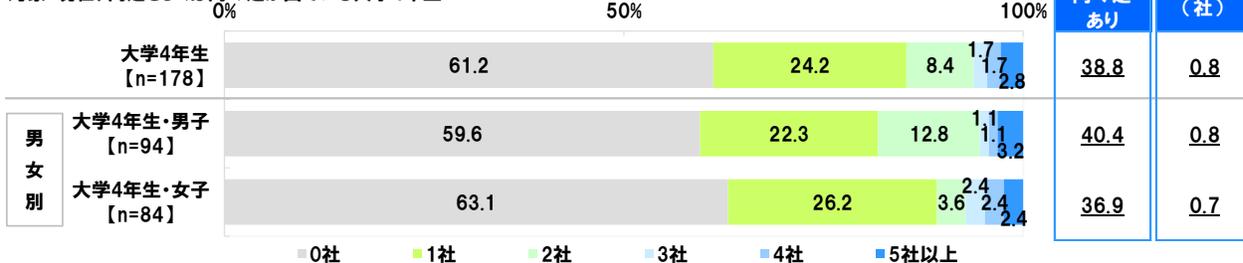
◆内定もしくは内々定の数 【自由回答形式(数値入力)】



また、内定・内々定が出ている大学4年生（178名）のうち、インターンシップを受けた会社から内定・内々定が出ている大学4年生の割合は38.8%でした。

◆インターンシップを受けた会社からの内定もしくは内々定の数 【自由回答形式(数値入力)】

対象: 現在、内定もしくは内々定が出ている大学4年生



～～就職情報サイトの登録状況～～

◆今年の大学4年生の約9割が就職情報サイトに登録

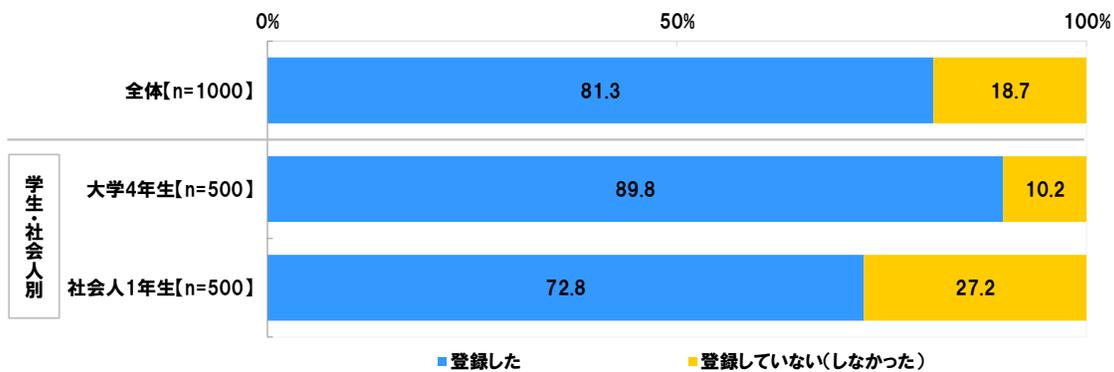
◆就職情報サイトの登録時期は「大学3年生の12月」から「大学3年生の6月」にシフト

就職情報サイトの登録状況について聞きました。

まず、全回答者1,000名(大学4年生500名、社会人1年生500名)に、就職情報サイト(リクナビやマイナビなど)に登録をしたか聞いたところ(※)、「登録した」人の割合は、全体では81.3%、大学4年生は89.8%、社会人1年生は72.8%となりました。

※社会人1年生には、就職活動をしていた時の状況を聴取。以下同様。

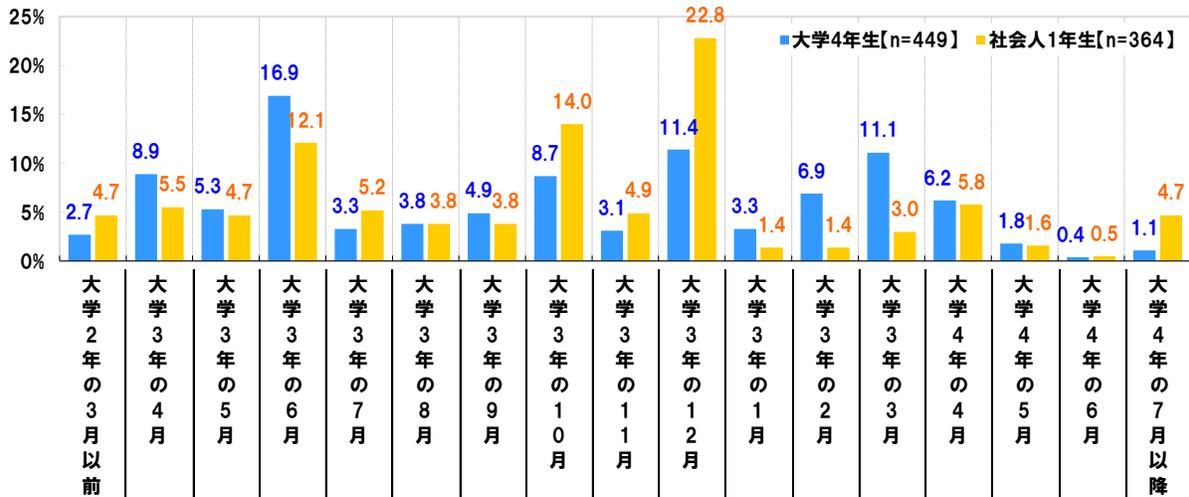
◆就職情報サイト(リクナビ、マイナビなど)に登録したか [単一回答形式]



次に、就職情報サイトに登録した813名(大学4年生449名、社会人1年生364名)の就職情報サイトへの登録時期をみると、今年の大学4年生では「大学3年の6月」がピークでした。他方、社会人1年生は「大学3年の12月」がピークでした。

今年から就職活動が後ろ倒しになりましたが、大学4年生と昨年度の就活生である社会人1年生とでは集中する時期が若干ずれており、ピーク時期も異なる結果となりました。今年の大学4年生のピーク時期である「大学3年の6月」は、インターンシップ関連の情報を扱うサイトがオープンした時期であり、社会人1年生のピーク時期である「大学3年の12月」は、就職情報サイトがグランドオープンした時期でした。今年の就職活動では、これまでの就職活動に比べインターンシップを重視した学生が多いと言えます。

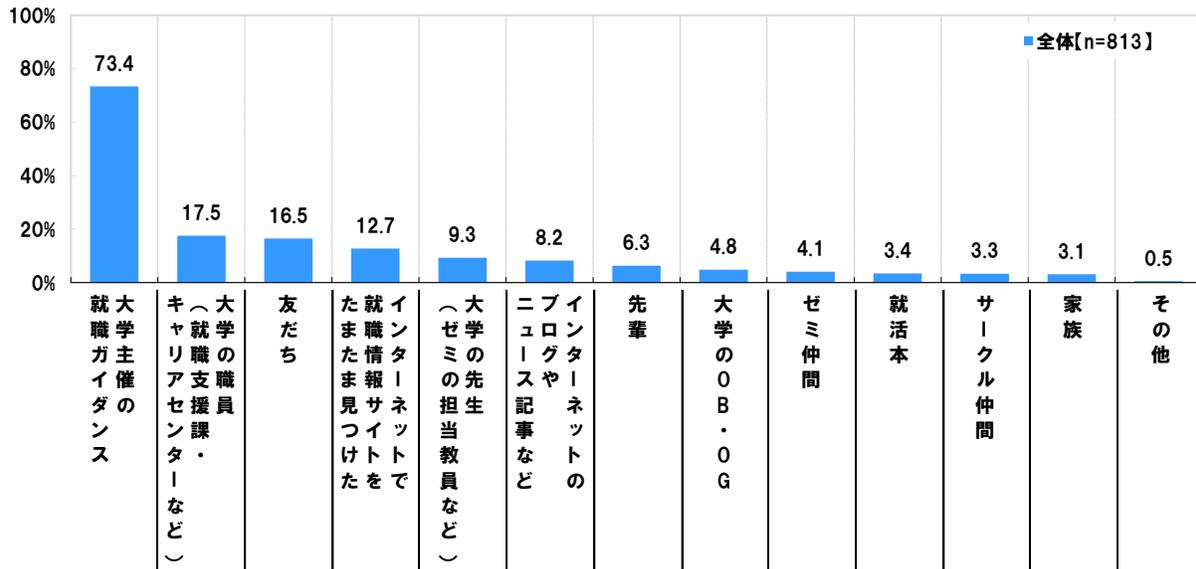
◆就職情報サイトに、いつ登録したか [単一回答形式] 対象:就職情報サイトに登録した人



- ◆約4人に3人が「大学の就職ガイダンス」をきっかけに就職情報サイトに登録
- ◆ネット就活におけるアドバイスは「ネットの情報に頼り過ぎないように」や「エントリー数について」など
- ◆複数の就職情報サイトに登録している学生が約9割、平均登録サイト数は3.2サイト

また、就職情報サイトに登録した813名(大学4年生449名、社会人1年生364名)に、就職情報サイトに登録したきっかけを聞いたところ、「大学主催の就職ガイダンス」が際立って高く73.4%となりました。就職活動をする学生の約4人に3人が、大学の就職ガイダンスで紹介されて就職情報サイトに登録をしているようです。

◆就職情報サイトに登録したきっかけは何か [複数回答形式] 対象:就職情報サイトに登録した人



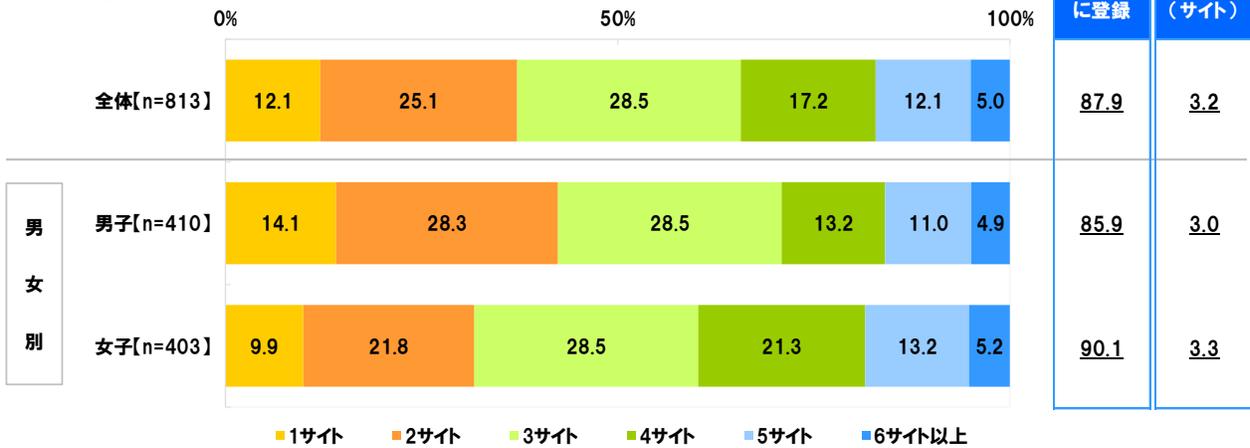
さらに、就職情報サイトに登録したきっかけとなった相手から、インターネットを使った就職活動における“アドバイス”や“注意点”はあったか聞いたところ、「ネットの情報だけに頼り過ぎないように」「ネット情報だけではなく、OB・OG訪問や説明会などで確認したほうがよい」といったネット上の情報に関する注意点やアドバイスが挙げられました。また、就職情報サイトの登録数やプレエントリー・エントリー数についてのアドバイスも散見されましたが、「多いほうが良い」というアドバイスと「多くないほうがよい、手当たり次第は良くない」というアドバイスが挙げられており、人によって異なるアドバイスを受けている状況が明らかになりました。

◆就職情報サイトに登録したきっかけとなった相手から、インターネットを使った就職活動における“アドバイス”や“注意点”はあったか [自由回答形式] 対象:就職情報サイトに登録した人 ※回答を一部抜粋して表示

	アドバイスや注意点
情報	ネットの情報だけに頼りすぎない
	ラクになる点もあるが、情報に惑わされないようにすることが大事
	情報を鵜呑みにせず自分で考える
	会社サイト閲覧だけで、その会社の全てが分かったとは思わないように
	ネットの情報ではなくOB、OG訪問などで生の情報をつかむべきである
	相手の顔が見えないため、パソコンのみならずしっかり説明会にも参加すること
サイト登録数	インターネットだけではなく、実際に企業に行き、その実情を確かめた方がよい
	多くの就活サイトには登録しないほうがよい
エントリー数	サイトによって求人が違うので、登録数は多いほうが得。しかしメールの量もかなり多いので管理はしっかりとすべき
	手当たり次第エントリーはしないこと
	今は興味が無い企業でも、プレエントリーしておかないと説明会に参加できないので、多くの企業にエントリーしておくこと
	自分の能力にあった企業を選ぶようにしたほうがよい。あまり高望みしても時間が経つだけ
	エントリーした際は、どのサイトからエントリーしたかわからなくならないように、メモを書いておくこと

そして、就職情報サイトに登録した 813 名(大学 4 年生 449 名、社会人 1 年生 364 名)に、登録した就職情報サイトの数を聞いたところ、複数のサイトに登録した人が 87.9%と 9 割近くになり、登録者のほとんどが複数のサイトに登録していることがわかりました。また、登録サイト数の平均は 3.2 サイトでした。

◆登録した就職情報サイトの数 [自由回答形式(数値入力)]
対象:就職情報サイトに登録した人



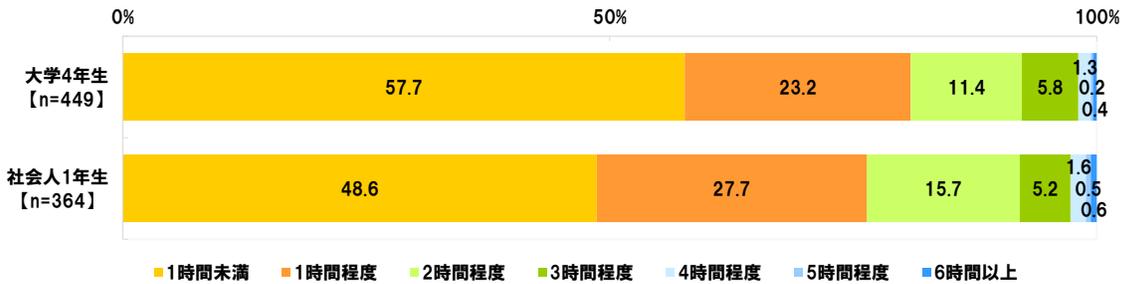
～～就職情報サイトの利用状況～～

◆大学4年生の就職情報サイトからのエントリー数 平均プレエントリー数 29.0社 平均エントリー数 12.8社

それでは、就職情報サイトに登録した人は、どのように利用しているのでしょうか。就職情報サイトに登録した813名(大学4年生449名、社会人1年生364名)に、就職情報サイトの利用状況について聞きました。

まず、就職情報サイトを、1日に何時間くらい見ているか(見ていたか)聞いたところ、大学4年生では「1時間未満」が57.7%と約6割となりました。就職情報サイトの閲覧時間は1時間未満か1時間程度という就活生が多いようです。

◆就職情報サイトを、1日に何時間くらい見ているか(見ていたか) [単一回答形式]
対象:就職情報サイトに登録した人

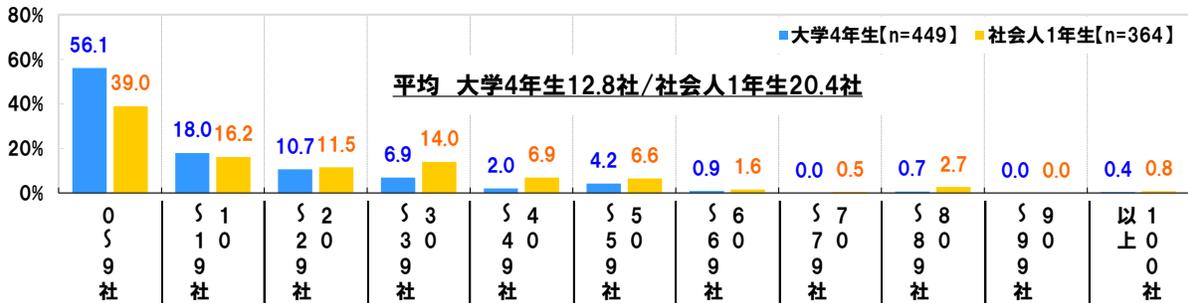


次に、就職情報サイトからのプレエントリー数とエントリー数を聞きました。大学4年生についてみると、プレエントリー数の平均は29.0社、エントリー数の平均は12.8社となりました。他方、社会人1年生の就活時についてみると、プレエントリー数の平均は38.1社、エントリー数の平均は20.4社となりました。大学4年生には、まだ就職活動中の学生も含まれるため、今後、プレエントリー数やエントリー数はさらに増えることが予想されますが、就職活動の選考開始が後ろ倒しになった今年、エントリー数などがこれまでと比べて、どのように変化するのは興味深いところです。

◆就職情報サイトから何社にプレエントリーしたか [自由回答形式(数値入力)] 対象:就職情報サイトに登録した人



◆就職情報サイトから何社にエントリーしたか [自由回答形式(数値入力)] 対象:就職情報サイトに登録した人



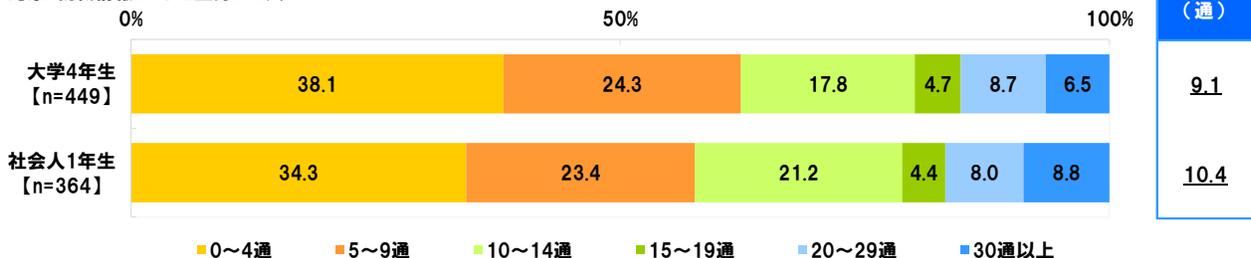
※プレエントリーは、「企業から説明会などの情報をもらうための登録のこと」として聴取
エントリーは、「選考に進むための申し込みをする行為のこと」として聴取

◆一日のメール受信数は、大学4年生の平均9.1通、社会人1年生の平均は10.4通
◆就職情報サイトからのメール 4人に1人がチェックしたいメールの半分もチェックできず

また、就職情報サイトに登録した813名(大学4年生449名、社会人1年生364名)に、就職情報サイトから届くメールについても聞きました。

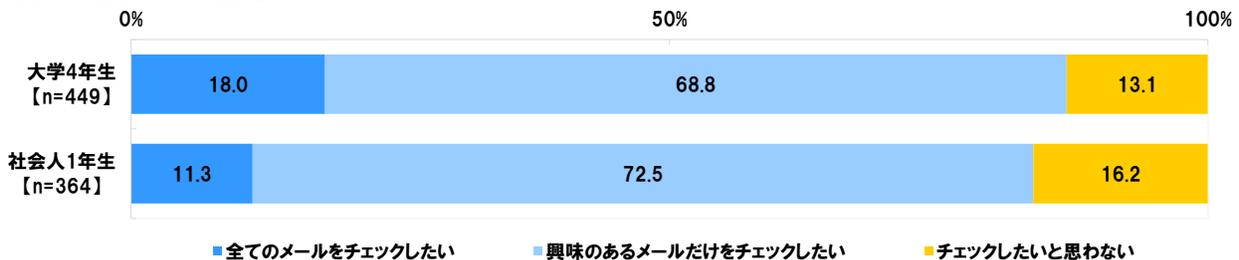
まず、就職情報サイトから1日に何通ほどのメールを受け取っているか(受け取っていたか)聞いたところ、大学4年生の平均は9.1通、社会人1年生の平均は10.4通となりました。

◆就職情報サイトからのメールを、1日に何通ほど受け取っているか(受け取っていたか) [自由回答形式(数値入力)]
対象:就職情報サイトに登録した人



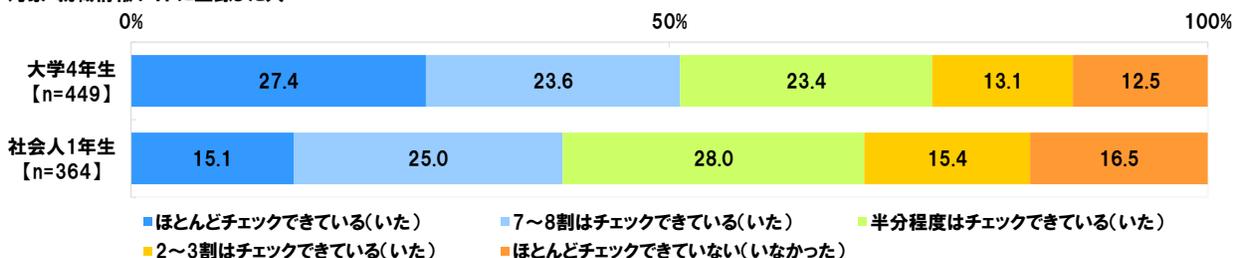
次に、就職情報サイトから受信したメールをどのくらいチェックしたいと思うか(思っていたか)聞いたところ、多くの就活生が興味のあるメールだけをチェックしたいとの思いを持っているようで、「興味のあるメールだけをチェックしたい」が7割前後(大学4年生68.8%、社会人1年生72.5%)と、その高さが際立つ結果となりました。

◆就職情報サイトから受信したメールをどのくらいチェックしたいと思うか(思っていたか) [単一回答形式]
対象:就職情報サイトに登録した人



それでは、チェックしたいと思うメールのうち、チェックできている(できていた)のはどのくらいなのでしょう。大学4年生についてみると、「ほとんどチェックできている」27.4%、「7~8割はチェックできている」23.6%と大方チェックできている人が51.0%と半数以上であるものの、半分もチェックできていない人は25.6%(「2~3割はチェックできている」13.1%と「ほとんどチェックできていない」12.5%の合計)と少なくないことがわかりました。社会人1年生についてみると、半分もチェックできていなかった人は31.9%(「2~3割はチェックできていなかった」15.4%と「ほとんどチェックできていなかった」16.5%の合計)と大学4年生よりも高い結果となりました。大学4年生も選考が進み、企業とのやり取りが増えてくると、チェックできるメールの割合は減ってしまうのかもしれませんが。

◆チェックしたいと思うメールのうち、実際にチェックできている(できていた)のはどのくらいか [単一回答形式]
対象:就職情報サイトに登録した人



～～就職情報サイトに公開して欲しい情報～～

◆就職情報サイトに公開して欲しい情報と得られる情報にギャップ

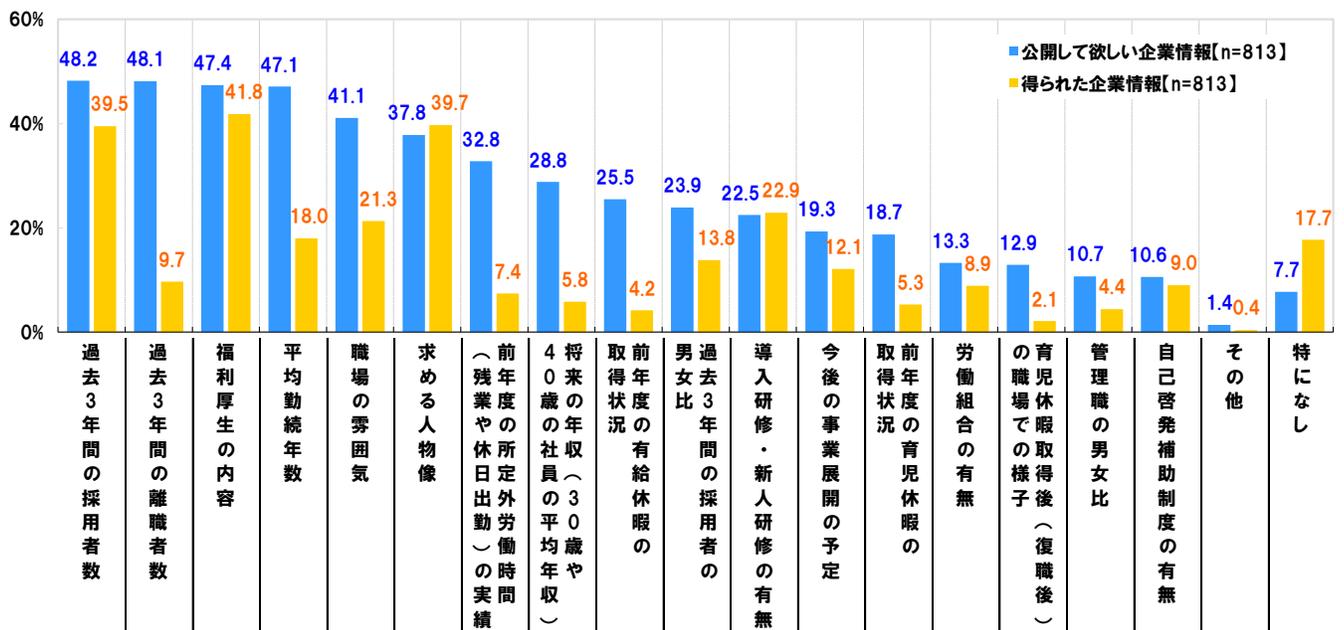
就活生の半数近くが「過去3年間の離職者数」の情報公開を希望。しかし就活生の9割以上がその情報を得られていない

就職情報サイトに登録した人は、就職情報サイトからどのような企業情報を得て、エントリー等の行動を起こしているのでしょうか。

就職情報サイトに登録した813名(大学4年生449名、社会人1年生364名)に、まず、就職情報サイトに公開して欲しい企業情報を聞いたところ、「過去3年間の採用者数」48.2%や「過去3年間の離職者数」48.1%、「福利厚生の内容」47.4%、「平均勤続年数」47.1%は、それぞれ半数近くから公開して欲しい情報として挙げられました。

一方、就職情報サイトから得られた情報についてみると、就活生が求めている情報と就職情報サイトで得られる情報にはギャップが存在していることが明らかになりました。特に、ギャップが大きかった企業情報は、「過去3年間の離職者数」(差38.4ポイント)、「平均勤続年数」(差29.1ポイント)、「前年度の所定外労働時間(残業や休日出勤の実績)」(差25.4ポイント)でした。

◆就職情報サイトにどのような企業情報を公開して欲しいか/就職情報サイトからどのような企業情報を得られたか [各複数回答形式]
対象:就職情報サイトに登録した人



~~“ソー活状況”~~

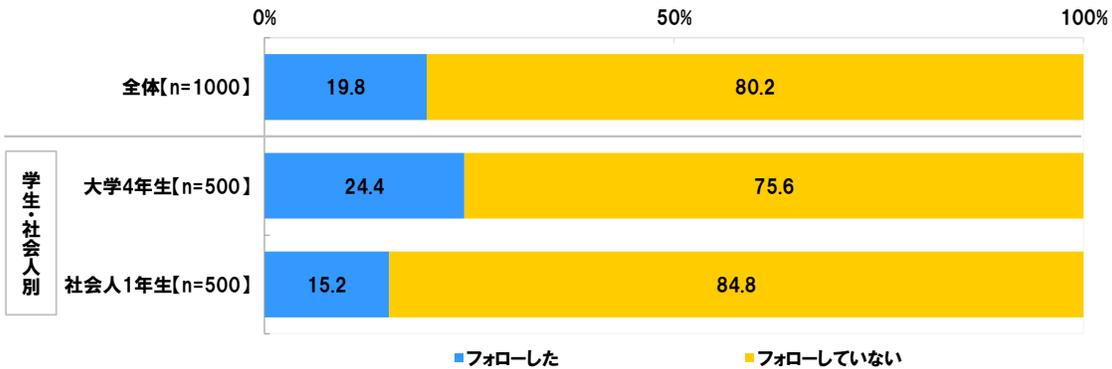
◆企業の採用 SNS をフォローした 今年の大学4年生の4人に1人

◆企業の採用 SNS の平均フォロー数 大学4年生 4.5社、社会人1年生 5.8社

インターネットを使った就職活動には、ソーシャルメディアを活用した、いわゆる“ソー活”もあります。

そこで、全回答者 1,000 名(大学4年生 500 名、社会人1年生 500 名)に、企業の採用に関わる SNS をフォローしたか聞いたところ、フォローした人の割合は、大学4年生では 24.4%と4人に1人の割合となり、社会人1年生では 15.2%という結果となりました。

◆企業の採用に関わるSNS(Facebook、Twitter、LINEなど)をフォローしたか [単一回答形式]



それでは、フォローした人は、何社くらいの SNS をフォローしたのでしょうか。

企業の採用に関わる SNS をフォローした 198 名(大学4年生 122 名、社会人1年生 76 名)に聞いたところ、大学4年生の平均フォロー数は 4.5 社、社会人1年生の平均フォロー数は 5.8 社となりました。

◆企業の採用に関わるSNSを何社フォローしたか [自由回答形式(数値入力)] 対象:企業の採用に関わるSNSをフォローした人



～～ネット就活における不安と困ること～～

◆ネット就活で困ること「必要なメールが埋もれる」「必要な情報の取捨選択が難しい」

◆ネット就活における不安「興味のある企業がブラック企業では」「エントリー数が少ないのでは」

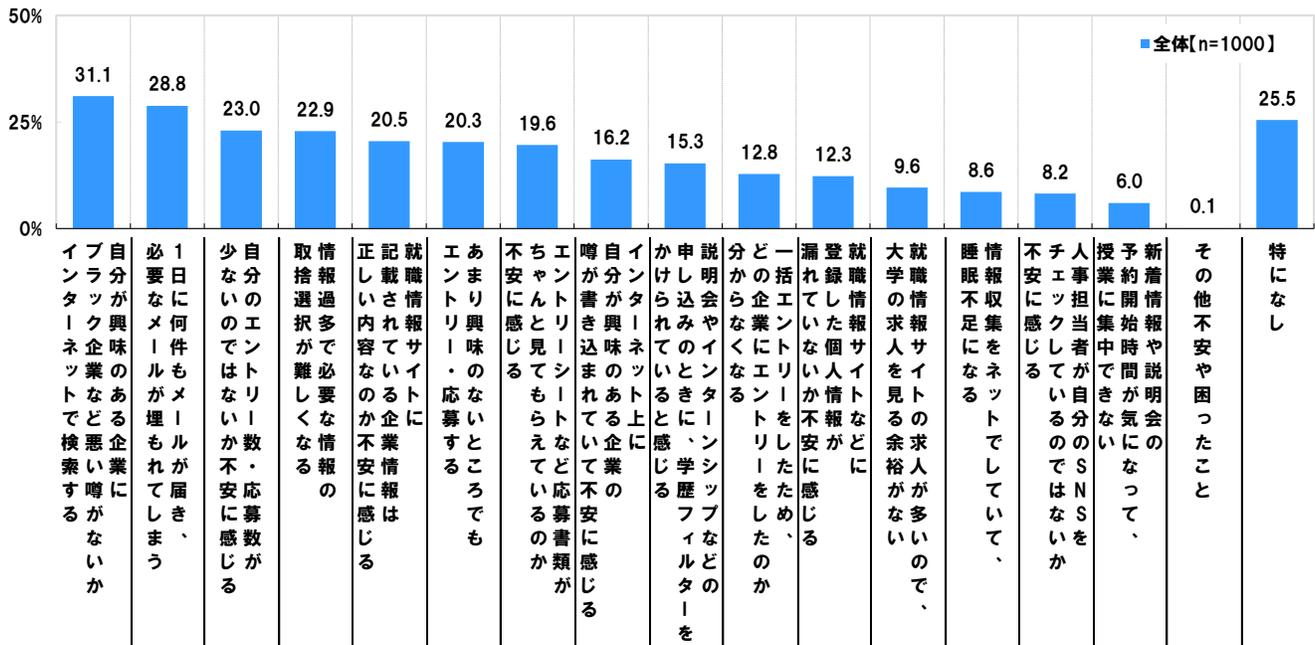
就職情報サイトの利用やソー活についてみてきましたが、インターネットを使った就職活動ではどのようなことに困り、どのような不安を感じるのでしょうか。

全回答者 1,000 名 (大学 4 年生 500 名、社会人 1 年生 500 名) に、インターネットを使った就職活動をしていて経験したことを聞いたところ、「自分が興味のある企業にブラック企業など悪い噂がないかインターネットで検索する」が 31.1% で最も多くなりました。就活生が「ブラック企業など悪い噂のある企業には就職したくない」との思いを抱えている様子が窺えます。

困ったことについてみると、「1 日に何件もメールが届き、必要なメールが埋もれてしまう」が 28.8%、「情報過多で必要な情報の取捨選択が難しくなる」が 22.9% となり、就活生が情報量の多さに困っていることがわかりました。

また、エントリーに関する内容についてみると、「自分のエントリー数・応募数が少ないのではないかと不安を感じる」が 23.0%、「エントリーシートなど応募書類がちゃんと見てもらえているのか不安を感じる」が 19.6% となり、エントリー数やエントリー後の企業の対応に不安を感じた就活生が 2 割前後いることがわかりました。さらに、エントリー数に対する不安からなのか、「あまり興味のないところでもエントリー・応募する」が 20.3% と、興味の薄い企業にエントリーする就活生の存在も明らかになりました。

◆インターネットを使った就職活動をしていて経験したこと【複数回答形式】



～就活生のネット就活に対する考え～

- ◆「就職活動に就職情報サイトは必要」大学4年生の83%が同意
- ◆「効率よく就活関連の情報が収集できる」大学4年生では約8割
- ◆「より多くの会社にエントリー・応募したほうが内定を得やすい」
大学4年生では約6割が「そう思う」と回答しているが、社会人1年生では半数以下

最後に、全回答者1,000名(大学4年生500名、社会人1年生500名)に、インターネットを使った就職活動についての考えを聞きました。

その結果をみると、「就職活動に就職情報サイトは必要」に同意を示した人は大学4年生では82.8%、社会人1年生では70.2%となり、就活生にとっては就職情報サイトが欠かせないものになっている様子が窺えました。

また、「様々な情報が手に入ることにより、志望業種や企業が広がる」(同意率 大学4年生79.4%、社会人1年生71.0%)や「企業情報・説明会の予約など効率よく情報収集ができる」(同意率 大学4年生78.6%、社会人1年生67.8%)といったネット就活のメリットを感じている(感じた)人も多くみられました。

しかし、大学4年生と社会人1年生を比較すると、いずれの項目も社会人1年生のほうが10ポイント前後低くなっています。就職後に就職活動を振り返ってみると、就職活動をしていたときとは別の見え方がするのかもしれない。

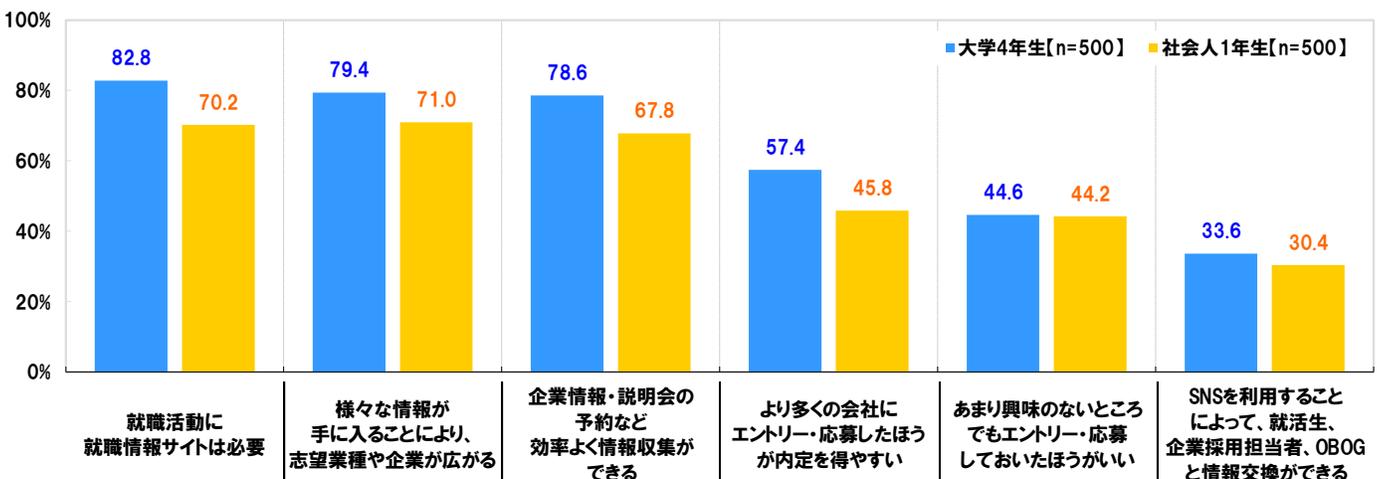
様々な情報が入手でき志望業種や企業が広がる、効率よく就職活動関連の情報が収集できると感じている就活生がいる一方で、情報の取捨選択に難しさを感じている就活生も5人に1人以上(前頁参照)と少なくありませんでした。自分にとって本当に必要な情報かどうかを見分けることが、ネット就活のポイントの1つなのではないでしょうか。

さらに、インターネットを使った就職活動におけるエントリーについての考えを聞いたところ、「より多くの会社にエントリー・応募したほうが内定を得やすい」は大学4年生では同意率が57.4%と約6割になった一方、社会人1年生では45.8%と半数を下回る結果で、ここでも今年の就活生である大学4年生と昨年の就活生だった社会人1年生の間で異なる傾向がみられました。

他方、「あまり興味のないところでもエントリー・応募しておいたほうがいい」の同意率は、大学4年生では44.6%、社会人1年生では44.2%と、どちらも半数を下回りました。

また、就職活動におけるSNS利用についても聞いたところ、「SNSを利用することによって、就活生、企業採用担当者、OB・OGと情報交換ができる」の同意率は、大学4年生では33.6%、社会人1年生では30.4%となりました。

◆インターネットを使った就職活動についての考え [各単一回答形式]
※同意率(「非常にそう思う(思った)」と「ややそう思う(思った)」の合計)を表示



■■調査概要■■

- ◆調査タイトル：インターネットを使った就職活動に関する調査
- ◆調査対象：ネットエイジアリサーチのモニター会員を母集団とする就職活動をしている（または就職活動をした）大学4年生とこの4月から社会人になった社会人1年生
- ◆調査期間：2015年6月9日～6月17日
- ◆調査方法：インターネット調査
- ◆調査地域：全国
- ◆有効回答数：1,000サンプル
(内訳) 大学4年生：500名（男性250名、女性250名）
社会人1年生：500名（男性250名、女性250名）
- ◆実施機関：ネットエイジア株式会社(担当：吉田)

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、「連合調べ」と付記のうえご使用くださいますよう、お願い申し上げます。

■■本調査に関するお問合せ窓口■■

連合(日本労働組合総連合会)

非正規労働センター 担当：松野・加藤・藤川

TEL : 03-5295-0555

Eメール : hiseiki@sv.rengo-net.or.jp

総合企画局 担当：奥田・岩城

TEL : 03-5295-0510

Eメール : jtuc-kikaku@sv.rengo-net.or.jp

受付時間 : 10時00分～17時30分(月～金)

■■連合(日本労働組合総連合会) 概要■■

組織名 : 連合(日本労働組合総連合会)
代表者名 : 会長 古賀 伸明
発足 : 1989年11月
所在地 : 東京都千代田区神田駿河台3-2-11 連合会館
業務内容 : すべての働く人たちのために、希望と安心の社会をつくる